

# 9.中毒性表皮壊死症 (Lyell症候群)

## ■病態および臨床症状

表皮の壊死性病変が主体であり、水疱形成をおこし、わずかな機械的刺激で表皮が大きく剥離(第2度熱傷と類似の症状)します。

予後はしばしば不良で、致死率も20%を超えるといわれています。

最も代表的な症状は、皮膚の灼熱感と疼痛(手で触れると痛みは増強される)であり、熱傷時と同じような自覚症状を訴えます。

## ■症例報告

患者	性・年齢	男性 30代
	使用理由 (合併症)	右肩痛、右肩関節周囲炎、 (凍結肩)
1日投与量/投与期間	ボルタレン錠 75mg/日 6日間	
右肩痛増強し、ボルタレン錠を処方される。		
時間経過	症状および処置	
投与3日後	食欲不振。	
5日後	夜、ちょっと様子がおかしくなる。 すべての薬剤を中止。	
中止翌日	朝から意識もうろう、歩行困難となる。午後に病院入院。全身チアノーゼ、橈骨動脈触知せず。腎不全と肝不全を指摘された。	
1日後	ショック遷延、無尿、皮膚水疱疹出現し、血小板も減少した。 救急救命センター転入院。黄疸あり、大腿部を中心に大水疱性皮膚剥離、ニコルスキー現象(+)。 集中治療室入院、大量補液、新鮮凍結血漿、ドパミン+エピネフリン、FOY、ウリナスタチン、ステロイド投与。心不全、腎不全、肝不全、DIC、中毒性表皮壊死症の診断された。血漿交換施行。	
2日後	血液吸着施行。利尿得られる。ショックより離脱。血小板輸血。	
4日後	摂食開始。塩酸ジルチアゼム再開(高血圧に対し)	
9日後	ほぼ水疱疹の拡大は停止、皮膚表面の37%で上下肢、臀部が主。	
12日後	不穏症状あり。ステロイド精神病。脳腫瘍除外診断のため頭部CTで脳梗塞(+).	
16日後	症状軽快。	
約1カ月後	脳梗塞のリハビリのため転院。	
併用薬	テプレノン、塩酸ジルチアゼム	

## ■主な対処(処置)方法

- ・「皮膚粘膜眼症候群の項」参照
- ・重症例では血漿交換をおこなうこともある